

平成6年度 木のグランドフェア

林産試験場 普及課

はじめに

北海道立林産試験場と北海道林産技術普及協会は、「木と暮らしの情報館」を主会場とし、隣のログハウス「木路歩来」や周辺の芝生を使って、毎年夏休みの期間を含めた長期のイベントを行っています。

今年度は(財)日本木材総合情報センターも主催団体に加わって、平成6年7月24日から8月28日までの約1か月間、一般の人たちを対象に、世界の優れたおもちゃやクラフト類を展示した「世界の木のおもちゃ&クラフト展」と、留辺蘂町のおもちゃ作家伊藤英二氏の実際に遊ぶことのできる大型遊具類を展示した「伊藤英二の遊びの世界」、さらに北海道の小・中学生を対象にした「第2回北海道子ども木工作品コンクール」から成る木のグランドフェアを行いました。

このイベントは北海道国土緑化推進委員会など多くの関係団体、企業などの後援や協賛を得て実施され、期間中約2万5千人の人出でにぎわう盛況を見せました。このイベントに対する関心がさ

らに高まり、木や緑に対する理解が一層深まることを願って、イベントの概要を紹介します。

イベントの全体概要

- ・名 称 木のグランドフェア
- ・期 間 平成6年7月24日〈日〉～8月28日〈日〉
- ・目 的
 - 1) 世界の優れたおもちゃやクラフト類を展示することにより、木に対する関心を高めてもらおう契機とするとともに、世界の加工技術に対する認識を深めてもらう。
 - 2) 実際に目で見、手で触れ、体で遊ぶことによって、木の持つ温もりなど木の素晴らしさを認識してもらう。
 - 3) 木工工作やレリーフ作りのコンクールを通して、子供たちに作る喜びを知ってもらうとともに、木の性質を学び工作技術の向上に役立てる。
 - 4) 工場廃材や試験終了材で作ったおもちゃや遊具、クラフトなどを通して、物を無駄なく使うことの大切さを学ぶ。
 - 5) 森林の地球環境保護に対する役割と、森から生み出される木材が生活環境に無くてはならぬ資材であることの認識を深める。
- ・主 催 北海道立林産試験場、北海道林産技術普及協会、日本木材総合情報センター
- ・後 援 北海道教育委員会、旭川市、旭川営林支局、北海道国土緑化推進委員会、北海道木質材料需要拡大協議会、北海道木材青壮年連合会、旭川木のもの組合、



木のグランドフェア室内版

旭川工芸デザイン協会、旭川民芸品振興連合会、各報道機関

- ・協賛 (株)日本エアシステム (JAS) 旭川営業支店、日本航空(株) (JAL) 旭川営業支店、北海道旅客鉄道(株)、関係団体・企業

このイベントの構成は

- ・世界の木のおもちゃ&クラフト展
 - ・ウッドサマーフェスティバル
 - ー親と子・木の夢ランドー
 - ・北海道子ども木工作品コンクール
 - ・伊藤英二の遊びの世界
- となっています。

世界の木のおもちゃ&クラフト展

世界各国のおもちゃやクラフト類のほか、過去に人気の高かった北海道および日本各地の作家や企業のものなども含めて展示しました。

海外のおもちゃやクラフト類は、日本木材総合情報センター、北方圏センターおよび札幌芸術の森の所蔵品の中から借りました。

展示品の総数とその内訳は次のとおりです。

総数 600点

海外 29か国、250点

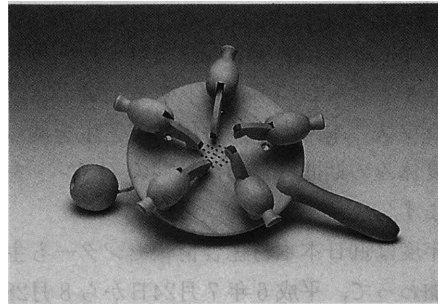
国内 34社、350点

海外の作品には北欧3国、アメリカ、カナダのものが多かったのですが、マダガスカル、グアテマラなど予期せぬ国のものもありました。

作品としては、木の素材を見事に生かした優れたものや、現在日本で作られているおもちゃの原形と思われるもの、レバーを回すと目玉がギョロ



目と口が動くイギリスの作品



エサをついばむスウェーデンのおもちゃ

ギョロ、口がバクバクする人形、取っ手を持ってぐるぐる回すとニワトリが・餌をついばむなど動きの面白いおもちゃなど、実に多種多様で見ている飽きないものばかりでした。

第2回北海道子ども木工作品コンクール

昨年度に引き続き、支庁、教育委員会、教師などの協力を得て、今年度のコンクールも次の要領で行いました。

・応募資格

北海道に在住する小・中学生で、個人または団体が学校を通じて応募する。

・応募作品

木工工作は木材を主な材料として加工した作品で、キット作品は対象外とする。個人作品は、長さ+奥行+高さの合計が1m20cmを超えないもの。

団体作品は一辺が1mを超えないものとするが、屋外用はこの限りでない。

レリーフはアート彫刻板を用いて、題材自由



展示風景

木のグランДФェア

で創作されたもの。アート彫刻板（約15×11×1.0cm）は、申し込みがあり次第当方から送付する。

・応募部門

木工工作個人部門 小学生の部、中学生の部
木工工作団体部門 小学校の部、中学校の部
レリーフ部門 小学生の部、中学生の部

・審査委員

木工塾とい工房主宰 伊藤 英二
上川教育局長 佐藤 仁志
北海道立池川美術館長 高橋 洋
（社）北海道林産技術普及協会 竹内 久彌
北海道立林産試験場長 長友 将
北海道東海大学教授 三上 純

・審査日 平成6年7月24日（日）
・表彰式 平成6年8月7日（日）
・応募総数 56校、515作品
木工工作個人部門 25校、283作品
小学校 8校、52作品
中学校17校、231作品
木工工作団体部門 5校、7作品
小学校 4校、6作品
中学校 1校、1作品
レリーフ部門 26校、225作品
小学校 6校、60作品
中学校 20校、165作品

以上のように、多数の応募がありましたが、銅賞以上の入賞者、学校名、作品名は表のとおりで

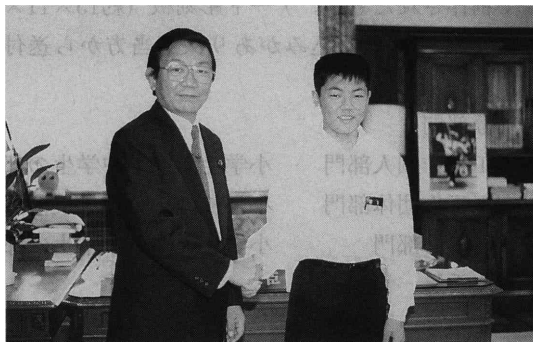
入 賞 者 一 覧 表

		賞	名 前	学 校 名	学 年	作 品 名
木工工作部門（個人）	小学生	金賞	三 沢 朋 有	阿寒町立布伏内小学校	6 年	チョーチンアンコウ
		銀賞	米 林 香 恵	月形町立札比内小学校	4 年	サギ
		銅賞	河 野 紗 穂	旭川市立江丹別小学校	3 年	カモシカ
		銅賞	土 居 麻 美	阿寒町立布伏内小学校	2 年	恐竜
		銅賞	岸 本 恵 介	旭川市立江丹別小学校	4 年	ねこ
		銅賞	大 井 志 穂	中標津町立若竹小学校	4 年	飛ぶ
	中学生	金賞	及 能 大 輔	北海道教育大学附属函館中学校	2 年	照明器具「光と影」
		銀賞	伊 藤 義 浩	札幌市立稲穂中学校	2 年	椅子
		銅賞	高 藤 千 夏	旭川市立神居中学校	2 年	木象嵌・時計（地球）
		銅賞	矢ヶ崎 弘 哉	札幌市立稲穂中学校	3 年	C D ラック
		銅賞	安 芸 隆 治	札幌市立西野中学校	3 年	額付鏡
		銅賞	安 芸 隆 治	旭川市立神居中学校	2 年	パズル「海の動物」
（団体）	小学生	金賞		置戸町立勝山小学校	6 年	動物たちの玉ネギドーム
		銀賞		置戸町立勝山小学校	5 年	アスレチック学校
		銅賞		置戸町立勝山小学校	4 年	エジプトランド
		銅賞		旭川市立北光小学校	4 年	森の音楽会
レリーフ部門	小学生	銀賞		苫小牧市立弥生中学校	特 殊 学 級	地図パズル
		金賞	前 田 尚 子	帯広市立緑丘小学校	6 年	エンゼルフィッシュ
		銀賞	土 野 歌 奈 子	旭川市立西神楽小学校	5 年	花とちょう
		銅賞	三 村 英 之	旭川市立西神楽小学校	5 年	かぶと虫
		銅賞	大 木 賢 太 郎	旭川市立聖和小学校	6 年	ブヨブヨ
		銅賞	富 田 隆 浩	帯広市立緑丘小学校	6 年	ふくろう
	中学生	金賞	小野寺 英 理	旭川市立千代ヶ岡小学校	6 年	夏の思い出
		銀賞	太 田 英 之	当麻町立当麻中学校	2 年	湿原の鳥
		銀賞	渡 辺 優 太	北海道教育大学附属旭川中学校	1 年	牧場
		銅賞	奥 山 和 剛	旭川市立北都中学校	2 年	蝶
		銅賞	設 徳 山 梨 恵	北海道教育大学附属旭川中学校	3 年	ワシ
		銅賞	東 田 裕 子	旭川市立永山南中学校	1 年	かれんさ漂う花
				旭川市立神居中学校	2 年	白樺の木

JAS賞（レリーフ部門）太 田 英 之 当麻町立当麻中学校2年 湿原の鳥
JAL賞（木工工作部門）及 能 大 輔 北海道教育大学附属函館中学校2年 照明器具「光と影」



コンクール審査風景



文部大臣と握手する太田君



コンクール表彰式



彫刻の森大会の作品の一部

す。

なお、レリーフ部門の最優秀賞としJAS賞を受賞した当麻中学校2年の太田英之君は、国内や世界の優れた木工品の見学や、文部省関係者に作品を紹介するため上京した9月27日、文部大臣室で与謝野馨文部大臣から直接激励を受ける幸運に恵まれました。また、文部省では、レリーフの素材であるアート彫刻板は、彫刻刀で彫ると着色された接着層が年輪のような模様を表し、彫り方の工夫によって様々な美しいデザインを表現できるため、考える教材として注目していることもわかりました。版画と彫刻、絵画をミックスした「アート彫刻」ともいうべき新たな芸術のジャンルの創出も期待され、このアート彫刻板の普及が望まれます。

また、池川の小中学生「彫刻の森」大会が洞刻美術館前の芝生で、8月3日から7日まで行われました。今回で8回目、出展数も61に達し、素晴

らしい作品にあふれていました。そのため、主催者の了解を得て、大会終了後作品の一部を林産試験場にも展示させていただきました。

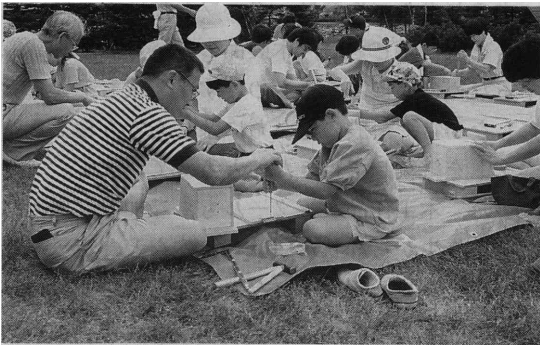
ウッドサマーフェスティバル

イベントの期間中、8月6日(土)、7日(日)の2日間、メインイベントとしてウッドサマーフェスティバルを行いました。その内容は

- ・コンクール表彰式(8月7日)
- ・木工教室
- ・木端市
- ・地場産農産物の即売
- ・林産試験場一般公開

などですが、2日間で約6,000人の人出でにぎわいました。

コンクールの表彰式には、速く函館や帯広、阿寒からも生徒や教師、父兄など、大勢の人が集まりました。審査委員長の高橋旭川美術館長から、



巣箱づくり



切り抜きおもちゃづくり

全体の講評や今後への期待などが述べられた後、場長、協会長から表彰者一人ひとりに賞状と賞品が手渡され、盛んな拍手を浴びていました。

木工教室では、巣箱と切り抜きおもちゃ作りをしました。両日とも50組の親子が一緒になって汗を流し、ともすれば失われがちな親子の絆を深めながら、作る喜びを実感する絶好の機会となっていました。

木端市では、民間企業の工場廃材、林産試験場の試験廃材や剥き心、カラマツのどんころに群がり、前回と同様に家に持ち帰ったり、試験場職員の指導を受けながら、思い思いの木製品の製作に取り組んでいる姿も見られました。

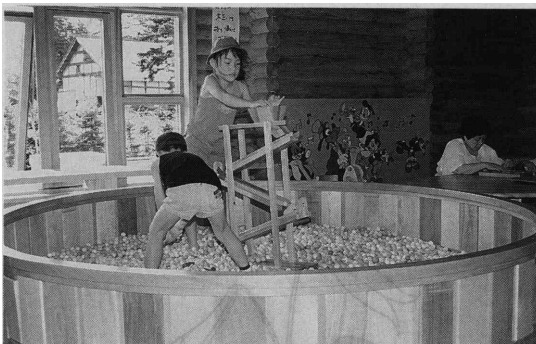
試験場の一般公開にも大勢の人が訪れ、試験場の職員と意見を交わしながら、木製品の素晴らしさ、木を使って育てることが地球環境の保護に大切なことを再認識する光景もありました。

また、今回は民間企業や試験場の若手職員の協力を得て、バギー車の運転が行われたり、かき氷や焼き鳥などのコーナーも設けられ、人気を博していました。

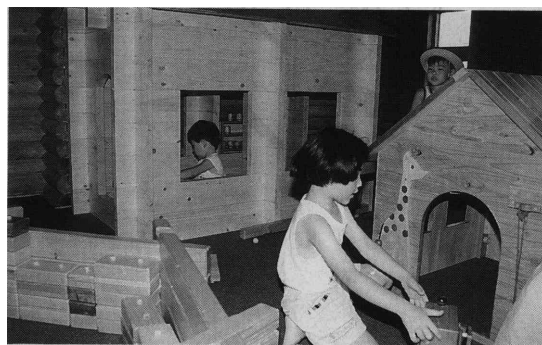
伊藤英二の遊びの世界

ログハウス「木路歩来」の中には、今回も留辺蘂町のおもちゃ作家伊藤英二さんのおもちゃ、遊具のみを集めました。

実際に体で遊べる大型遊具としては、すべり台、木の砂場、組み立てハウス、ままごとハウス、クムクムランドなどですが、このうちすべり台、木



木の砂場で遊ぶ子供



ままごとハウスで遊ぶ子供

れでにぎわっていました。

時には歓声をあげながら楽しそうに遊ぶ姿を見て、このような木製の遊具やおもちゃと実際に遊ぶことのできる大型施設が多く、街に生まれることを、今回もまた強く念じずにはいられません。これを機会に、試験場で製作した大型遊具は常設展示とし、情報館の開館日にはいつ来ても、このログハウスの中で遊べるようにしました。

おわりに

今回も前回、前々回に引き続き、一般の人たちを対象にしたイベントを行いました。子ども連れて訪れた多くの人たちが、情報館に展示されている壁や床などの木製品に、感嘆の声を上げていました。

木のおもちゃや遊具、クラフト類は木の持つ温もりを肌で感じさせ、木製品の素晴らしさを認識するための入口になるものです。今後も工夫を凝らしながら、一般の人たちに楽しんでもらえるイベントを継続していきたいと考えています。

また、木工作品コンクールも、参加校も増え、生徒や先生から礼状が届けられるなど、定着・発展の兆しが見えてきました。今後も教育委員会、先生方の意向も踏まえながら、木工工作コンクールのメッカとなるよう努力をしていきたいと思ひます。

なお、このイベントを開催するに当たり、多くの企業、団体から協賛をいただきました。厚くお礼申し上げます。

